

広報ほんべつ

本がリ

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2017

January
No.1059

1 月



本別中央小学校



仙美里小学校

勇足小学校

Pick up

- ✿ 新年のごあいさつ
- ✿ 新春・夢・希望
- ✿ 北海道日本ハムファイターズ応援大使決定



新年あけましておめでどうござい
ます。新たな希望を胸に、健やかな
新年を迎えられたこととお喜び申し
上げますとともに、日ごろより町政
運営に特段のご理解とご協力をいた
だいておりますことに、心からお礼
申し上げます。

昨年、四つの台風が北海道に上
陸・接近する未曾有の自然災害によ
る相次ぐ洪水や土砂崩れ等により、
十勝地方を中心に人命が失われ、多
くの人が被災されました。この災害
の犠牲になられた方々、ご遺族に対
しましてあらためて衷心より哀悼の
意を表するとともに、今なお不自由
な生活を送られております方々に心
よりお見舞いを申し上げます。

本町におきましても土砂の流出
道路損壊等により、ご不便をお掛け
いたしました。現在は多くの箇所
で復旧工事も進められ、平時に戻りつ
つありますが、まだ一部で通行止め
等ご不便をおかけしている箇所もあ
ることから、一日も早い復旧を進め
てまいりたいと考えております。

また、昨年は元職員の不祥事によ
り町民の皆様が多なるご迷惑ご心
配をお掛けしましたことにつきまして
、あらためてお詫び申し上げます。
今後、全庁一丸となり再発防止に向
け取り組みを進め、町民の皆様の信
頼回復に努めてまいれる所存ござい
ます。

基幹産業であります農業につきま

しては、植え付け期の高温、乾燥傾
向に始まり低温、日照不足、雲雨天
多湿、更には収穫期の台風の影響に
よる降雨など、悪天候に見舞われ、
小麦につきましては平年作を確保し
たものの、豆類やてん菜、馬鈴薯な
ど他の作物につきましては平年収量
を大きく下回る結果となり、農業は
大きな打撃を受け、関連企業への影
響も多大なるものがありました。

そして環太平洋パートナーシップ
(TPP) 協定が国会において承認
されるなど、本町のみならず、北海
道、日本農業の存続さえも大きく揺
るがすような動きが出てきました。
しかし、このような厳しい状況の
中にあっても、私たちは未来に大き
な夢を託し、確かな歩みを続けなけ
ればなりません。

昨年は、町内に居住する若者たち
が職域などの垣根を超えた交流から、
まちを元氣(活性化)にする取り組
みとして「ほんべつ若者の輪創造プ
ロジェクト」がスタートし、今年ほ
更なる輪が広がることを期待してお
ります。

今後も町民の皆様を元気に
したいという思いと時代のニーズを
的確に捉え、さまざまな事業に対し
積極的に取り組み、総合計画や地方
創生に掲げるまちづくりにまい進し、
本町がさらなる飛躍を遂げる一年と
する決意を新たにいたします。

本年もこれまでと変わらぬご支援
ご協力をいただきますようお願い申
し上げるとともに、皆様のご多幸と
ご健康を心からご祈念申し上げます。

明けましておめでどうござい
ます。平成29年の年頭に当たり、本別町
議会を代表して、謹んで新年のごあ
いさつを申し上げます。

町民の皆様におかれましては、希
望に満ちた新春をお迎えのことと、
心からお慶び申し上げます。また、
日ごろから町議会へのご理解と、議
会活動に対するご支援、ご協力を賜
り、厚く御礼申し上げます。

日本経済は、安倍内閣による国の
一億総活躍社会の実現と地方創生の
推進などの経済対策はあったものの、
生産年齢人口の減少などにより個人
消費の拡大はなかなか難しく、特に
地方において景気上昇の実感はあり
ませんでした。また、アメリカ大統
領選挙が終わり、さらに先行き不透
明となりましたTPPが本町の基幹
産業である農畜産業へ、どれほどの
影響を与えるものなのか、議会とし
ても引き続き注視する必要があるま
す。

昨年8月には本町のみならず多く
の自治体が台風の上陸、接近により
大きな被害を受けた年でありました。
集中豪雨に伴う河川の氾濫などによ
り、住宅や農地への浸水被害、道路・
橋梁の崩壊など、住民生活や農業、
さらには地域経済に大きな影響を受
けたところであります。

本町議会でも国に対し、激甚災害

の早期指定などを求める意見書を提
出したしました。今回の災害や東日
本大震災、また、昨年の4月に発生
いたしました熊本地震の復興とあわ
せまして、今後日本全体が協力を
して支援や災害対策事業を促進して
いく必要性を強く感じているところ
です。

明るい話題もありました。南米で
初めて開催されましたリオオリン
ピック・リオパラリンピックでは多く
の日本人の活躍が記憶に残っており
ます。リオオリンピックでは、史上最
多となります41個、また、リオパラ
リンピックでは24個のメダルを獲得
され、日本中が喜びに包まれたこと
と思えます。3年後に開催されます
東京オリンピックでは、さらなる活
躍を期待しているところであります。

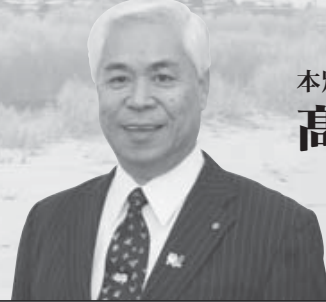
本町議会におきましては、「町民
に開かれた議会」を目指して議会の
指針となる「議会基本条例」を6月
に制定いたしました。より多くの町
民の皆様により深く議会活動、議
員活動を理解していただけるよう取
り組みをさらに進め、二元代表制の
一翼を担うものとして、その責務を
認識し、本町のまちづくりに、議員
一同全力で取り組んでいく所存で
ございます。

本別町にとりまして、新しい年が
活力にあふれ、町民の皆様が笑顔で
暮らせる素晴らしい年になりますよ
う心より祈念申し上げます。新年
のごあいさつといたします。

本別町議会議長
方川 一郎
Ichiro Katakawa



本別町長
高橋 正夫
Masao Takahashi



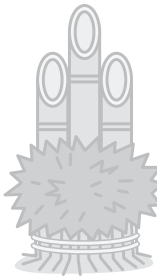
迎春



- 【役場】
町長 高橋正夫
副町長 砂原 勝
- 【町議会】
議長 方川一郎
副議長 林 武
- 議員 阿保静夫
高橋利勝
方川英一
小笠原良美
黒山久男
山西三三夫
大住啓一
篠原義彦
藤田直美
矢部隆之

- 【公平委員会】
委員長 大和田和盛
委員 矢野邦夫
新津直子
- 【農業委員会】
会長 山西輝美
会長代理 荒木幸造
委員 山西三三夫
細田 昇
荒 哲弘
阿保静夫
風間 進
牧田安史
- 【社会教育委員会】
委員長 阿部 立
副委員長 志戸由美子
委員 能祖美恵子
沼田久枝
小川末男
遠山倫子
井出良則
矢田龍介

- 【固定資産評価審査委員会】
委員長 山下芳久
職務代理者 土藏啓一
委員 前田時男
- 【選挙管理委員会】
委員長 小林信雄
職務代理者 山下孔三
委員 天池二郎
齊藤 一成
- 【監査委員会】
代表 表 畑山一洋
委員 黒山久男
- 【教育委員会】
教育長 中野博文
教育委員 水谷令子
布施耕一
鈴木清志
丑若理恵
- 【本別消防団】
団長 遠藤利之
副団長 三井孝寿
矢野邦夫
伊藤英昭
本団部長 木下登美夫



ぼくたち わたしたち

2017年の干支はとり(酉)。平成17年生まれで今年、足小、仙美里小合わせて56人。将来の夢、今年頑張り

とり年生まれ



年男、年女になる子供たちは中央小、勇
たいことなどを聞いてみました。(敬称略)

新春

夢

一人ひとりに個性があり、夢がある。
今の気持ちを忘れずに、
君だけのよさを輝かせよう!

希望



勇足小学校

- 【5年生】**
 ☆夢 酪農家、やったことのない仕事をやりたい 井原来実
 ☆夢 バイロットか電車の運転手 岡本龍二
 ☆夢 野球選手 加藤力斗
 ☆勉強を頑張りたいです 久木田優妃
 ☆すぐ泣かない、怒らない、きつい言葉を言わない、他にもたくさん 林 楓華
 ☆野球で盗塁を刺せるキャッチャーになりたい 森住 駿
 ☆夢 学校か保育園の先生。
 みんなに勉強を教えたいです 山下龍星
- 【6年生】**
 ☆夢 英語の先生です 久常かなめ
 ☆中学校で勉強を頑張りたい 福良 涼
 ☆中学生は勉強が難しくなるので頑張りたい 山下英一郎
 ☆中学校で部活を頑張る。
 身長めざせ170cm!! 吉田 遥



仙美里小学校

- 【5年生】**
 ☆夢 仙美里小学校の教員 梅津亮汰
 ☆野球少年団で十勝大会で2勝以上したいです 佐川巧真
 ☆夢 バティシエ。つくったケーキでみんなを笑顔にしたいです 伏見明恵加



本別中央小学校

- 【5年生】**
 ☆苦手な教科を克服したいです 飯田優里
 ☆夢 獣医 石村あみ
 ☆これまでより成績を上げる 井出依快
 ☆夢 農家 井出 結
 ☆夢 バティシエール 伊藤凜音
 ☆苦手なことに挑戦する一年にしたいです 岩本瑞紀
 ☆夢 木工職人 岡崎花音
 ☆苦手なことに挑戦し大嫌いな算数も克服します 岡本小堵音
 ☆6年生として責任感を持ち、習い事も両立して頑張りたい 川口結衣
 ☆ピアノの練習をいっぱいして上手くなることです 木南璃子
 ☆テストで百点を取る 木下直人
 ☆夢 サッカー選手 木村凌也
 ☆夢 漁師になりたいです 小松頼暉
 ☆サッカーでたくさん点を取る。国語でたくさん漢字を覚える 坂井 葵
 ☆サッカーで全道大会に行くことです 佐々木寿真
 ☆夢 バティシエール 佐藤花実
 ☆サッカーを頑張る。テストで100点取る。もっと友達と親しくなりたい 高橋里来
 ☆勉強を頑張る 瀧澤里妃
 ☆夢 酪農家 塚田あゆむ
 ☆サッカーを頑張る 堤 遥成
 ☆5年生のときよりもうちよつと成長したい 西岡優希
 ☆夢 看護師。人の命を助けたいからです 林 遥菜



- ☆勉強を頑張る。色々な料理に挑戦する 平尾際汰
 ☆夢 サッカー選手 本寺華人
 ☆他の学年のお手本になれるように頑張りたいです 松井琉偉
 ☆夢 保育士です 松嶋玲花
 ☆勉強を頑張ってテストで100点をとれるように頑張る 三浦真翔香
 ☆夢 研究者。いろいろな生物を研究したい 村中保史朗
 ☆夢 助産師 矢吹和心
 ☆習い事を頑張る。勉強・スポーツを頑張る 山川零月
 ☆できるだけ100点をテストで取れるように勉強を頑張りたいです 山根楓香
 ☆夢 マンガ家になってマンガ大賞を受賞したい。そしてそのマンガを実写映画化 山根桃香
 ☆夢 バティシエ 山本実結
 ☆夢 バティシエールになってかわいいケーキやおかしを作りたいです 吉田あおい
 ☆水泳で自己ベストの更新と、最高学年なので下の学年の見本となるように頑張りたいです 吉田彩花
 ☆ホームランを打つ 渡部慧文
- 【6年生】**
 ☆部活を頑張る 石崎陽向
 ☆中学生になるので勉強、部活を頑張りたい 岩崎渉吾
 ☆4月から中学校に行くので勉強を頑張りたい 篠原明日香
 ☆自分の苦手を直して新しい勉強を頑張る 田口光一
 ☆数学を頑張る 千葉彩音
 ☆夢 マンガ家 三品桜世



有原航平選手

- ①16番 ②投手 ③1992.8.11
- ④24歳 ⑤189cm ⑥100kg
- ⑦広島県 ⑧右投げ/右打ち

応援大使にまちづくり・まちおこしの ためにしてほしいこと、募集します!

本別町がもっと元気になるために、有原航平選手や大累進選手にやってもらいたい「あんなこと」や「こんなこと」。あなたのアイデアを募集します。

お寄せいただいたアイデアの中から実現できそうなものを選んで、球団に提案します。両選手がまちづくりを盛り上げてくれる素敵なアイデアをお待ちしています。
※キャンプ期間、オープン戦期間およびシーズン中は、応援大使が本別町を訪問することはできません。お寄せいただいたアイデアの中から、いずれかのアイデアが必ず選ばれて実施されるとは限りません

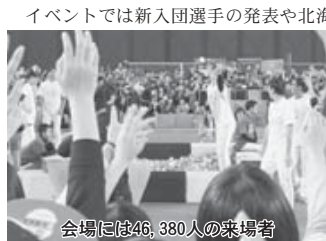
- 募集期間 1月20日(金)まで
- 記入事項 住所、氏名、電話番号、アイデアの内容
※アイデアの内容はできるだけ具体的に記入してください
- 提出方法 直接持参、郵送、FAX、Eメール
- 提出先および問い合わせ
〒089-3392 本別町北2丁目4番地1
本別町役場企画振興課企画・生涯学習担当
☎ 22-8121 FAX 22-3237
Eメール kikaku@town.honbetsu.hokkaido.jp



12月15日、サイン入りユニフォーム、等身大パネル等が役場に届きました

ファイターズファンフェスティバルに 行ってきました!

北海道日本ハムファイターズのファンフェスティバル2016が11月23日、札幌ドームで開催されました。これに合わせて本別町はバスツアーを実施。参加希望者が多数だったため抽選を行い、当日は当選者とほんべつ後援会役員ら計36人が参加しました。



会場には46,380人の観客者



札幌ドーム前で記念撮影

北海道日本ハムファイターズ応援大使 2017本別町応援大使に 有原航平選手 大累進選手が決定!



© H.N.F.

応援大使のプロフィール

- ①背番号 ②守備 ③生年月日
- ④年齢 ⑤身長 ⑥体重
- ⑦出身 ⑧投打

北海道の球団として多くの道民から愛されている北海道日本ハムファイターズ球団が、2013年より取り組んでいる「北海道全力応援プロジェクト ファイターズ選手による市町村応援大使」について、2017年応援市町村として本別町が選ばれました。応援大使となる選手を決める抽選会が、11月23日に札幌ドームで行われ、北海道日本ハムファイターズほんべつ後援会の黒山久男会長が抽選に臨み、有原航平選手と大累進選手を引き当てました。

両選手には2017年の1年間、本別町が元気になるよう、さまざまなPR活動を行っていただく予定です。お楽しみに!本別町は両選手を全力で応援します!



大累進選手

- ①32番 ②内野手 ③1990.8.31
- ④26歳 ⑤175cm ⑥73kg
- ⑦札幌市 ⑧右投げ/右打ち

北海道日本ハムファイターズ ほんべつ後援会 会員募集中です!

北海道の地域球団である北海道日本ハムファイターズの応援を通じて、地域の活性化および青少年の健全育成を支援し、ファイターズとともに活動を行っていくため、平成28年9月27日に「ほんべつ後援会」が設立されました。入会を希望される方は後援会事務局へお申し込みください。

後援会連絡先 ☎090-9512-1286 (大橋堅次事務局長)
後援会ホームページ <http://jfdyq067.wixsite.com/mysite>

本別町空き家セミナー

無料相談会



本別町居住支援協議会（鹿島豊隆会長）主催の空き家セミナーが11月20日、老人福祉センターで開催されました。

住宅・空き家の専門家がアドバイス

午前中のセミナーでは、鹿島会長が「空き家について困っているという声を多く聞いた」として開催趣旨を踏まえてあいさつ。町総合ケアセンター職員が本別町の空き家対策等の取り組みについて説明し、続いて、同協議会のオブザーバーら5人が講演しました。

最初に、司法書士である加藤裕子さんが、「空き家の相続・登記について」と題して相続の仕方や遺言の方法など、クイズを交えながら事例をあげて解説。次に、家財整理相談窓口の神野敏幸代表が、家財整理（遺品整理）はどのようなことを行うのか、実際の金額や業者選び、生前整理のポイントなどを詳しく述べました。最後に、全国住宅産業協会の山口恭史新規事業委員が平成27年に施行された「空家等対策の推進に関する特別措置法」の概要や、法に基づく「特定空家等」の指定などを説明すると、約50人の参加者は大きくうなずいたり、メモを取るなどして聞き入りました。



午後からは空き家・住まいに関する無料相談会が同会場で行われ、空き家所有者や町内外4組の相談者が参加。同協議会構成メンバーへ、空き家の売却や利活用方法などについて相談しました。続いて、空き家のある現地で内覧調査が行われ、同協議会委員らは、相談者の意向を聞き取りながら空き家の利活用方法を検討しました。

相談者の一人は、「住人が亡くなってからの家財整理は大変。遺族が町外に住んでいる場合は特に負担が大きい。生前整理を心掛けたい」と話しました。同協議会では、今後も空き家の台帳作成を進めながら相談会を継続的にを行い、「貸したい」と「借りたい」を結びつけたいとしています。

いきいきほんべつ

ふれあい祭り



「ともに学び、ともに支えあうネットワークづくり」をテーマに、いきいきほんべつふれあい祭り（実行委員会主催＝新津和也実行委員長）が11月20日、中央公民館で開催されました。

地域活動を発信し、交流を深める

会場では、町内で活躍する24団体・サークル、9個人が出展し、日ごろ培ってきた活動の成果を発信。手作り品などのフリーマーケットや、健康や食生活・行政に関する相談、缶バッジづくり、オリジナルエコバック制作、絵本読み聞かせなどの催しのほか、無料包丁とぎや生ごみ堆肥の無料配布など恒例のイベントが実施されました。また、鉢花や野菜、豆加工品などの販売や喫茶コーナー、そば・うどんの食事コーナーも人気を集めました。ブースで買い物や体験をした人を対象に抽選会も行われ、キレイマメ製品や各団体お薦めの商品が来場者にプレゼントされました。

会場を訪れた約1,000人の来場者は、各出展者との交流を楽しみながら、楽しい一日を過ごしました。

ふるさと給食で交流

本別で生産されている食材を最大限に活用した献立で給食を提供する「食べて学ぶふるさと給食」が11月29日、町内各小・中学校や本別高校、仙美里・勇足保育所で行われました。



これは、子供たちに地場産農畜産物や地元加工食品への理解を深めてもらい、食品の栄養や働きを知り、食の大切さを学ぶことを目的として毎年実施されています。この日のメニューは本別美蘭牛バーガー、かぼちゃのグータン、バーニャカウダサラダ、ピシソワーズ、豆のティラミス5品、本別産の牛肉や小麦、ニンジン・ジャガイモなどの野菜のほか、豆腐、味噌などの食材がふんだんに使われました。

また、この日は食材を提供した本別農協女性部ら地元生産者と加工業者が参加して自分の取り組みを紹介したほか、「親子ふれあい給食」として保護者も試食に参加しました。本別中央小学校（山川修校長、217人の4年生のクラスでは、児童との交流や、町長、教育委員、学校給食共同調理場職員らと意見を交換、生産者の井出泰晴さんは、「給食がこんな手がかつているとは知らなかった。農業は大変な職業だが、子供たちの笑顔が励みになる。これからも良い食材を生産したい」と話し、地域、学校、行政がふれあいながらふるさとの味を笑顔で楽しみました。



育てる人—つくる人—食べる人が給食で「つながる」

学校給食共同調理場では、ふるさと給食の取り組みで協力を得られた生産者の農場で、1年を通して職員が収穫などの作業を体験。農場体験を通して初めてわかった生産者の苦労や、作物品種の特性、食の大切さなどを子供たちに伝えました。

また、本別町では平成27年度から、食に関する指導（食育）の推進に中核的な役割を担う「栄養教諭」を配置しています。学校での食育授業を通して、小田恵里奈栄養教諭は「給食は生きていく教材。本別産の食材を意識しながら、七草粥等の行事食や伝統食、和食などを取り入れた献立を考えている。子供たちがその地域ならではの給食を食べ、記憶に残る安全安心でおいしい給食を提供したい」と話しています。



栄養教諭による授業



職員が農場体験

「がんばり」を披露 学びと障がい者福祉の



障がい者週間記念事業 学びの日フェスティバル

共通テーマ「ともに！」

障がい者週間記念事業・学びの日フェスティバル（実行委員会主催＝チャレンジ・ネットワークほんべつ、教育委員会）が12月3日、「ともに！」をテーマに中央公民館で開催されました。

昨年に引き続き共同開催となったこのイベントは、さまざまな体験や発表を通じて学びの輪を広げるとともに、障がい者福祉への理解を深めることを目的に実施。本別中学校吹奏楽部による演奏でスタートし、開会式では学びの日宣言の朗唱と、障がい者週間の啓発セレモニーが行われました。続いて、ステージでは、みんなのがんばり発表会として、中高生ミッチェル訪問団や同ネットワークほんべつ加盟団体、農福商連携事業「農作物栽培実証実験」に携わった皆さんなど計27人がステージでそれぞれの活動の成果を報告。さらに、町内の福祉施設で働く4人が「私と同僚」と題した創作劇で、障がいのある人と働くために必要な配慮のあり方や効果的なアドバイスの方法などを、わかりやすく伝えながら熱演しました。会場内には、実行委員会加盟団体によるフードコーナーやお茶席が設置されたほか、ディスコン大会やアイヌ語ジャンボかるた大会、昔遊び、工作コーナーなど多彩な催しが繰り広げられ、約650人の来場者が町内の活動に理解を深めながら楽しいひとときを過ごしました。



アイヌ語ジャンボかるた大会

昔遊びコーナー

ミッチェル訪問団の報告

HELLO 勇足小学校

学校教育目標

- ◇よく考える子
- ◇思いやりのある子
- ◇ねばり強い子
- ◇明るく元気な子

教育目標実践化

- あ あいさつ
- い 一生懸命
- う 美しい歯
- え 笑顔 顔
- お 思いやり

勇足小学校（吉藤清孝校長・全校児童49人）は、地域の豊かな自然や地域住民とのふれあいを生かした「特色ある教育活動」を展開しています。また、地域や保護者との連携をはじめ、保・小・中学校間との連携も積極的に深めるなど、勇足地区におけるコミュニティ・スクールの導入に向けた調査・準備を推進しております。



9/2 地域の警察署員と共にドライバーへ交通安全を呼びかける児童

地域の農協青年部の指導のもと黄色に実った稲を刈り取る児童



10/7



11/19 小中連携事業として、ALTや勇足中学校の先生と楽しく英語を学ぶ児童



6/6

地域の農協青年部の指導のもと、学校水田に田植えをする児童



6/16 学校行事「エトセトラマーケット」を通して、地域住民と楽しく触れ合う児童



7/22~24 勇足地区開拓の祖の故郷である徳島県小松島市を訪問しました

本別川橋梁が「選奨土木遺産」に認定

本別川橋梁（南1丁目地先）が11月18日、社団法人土木学会「選奨土木遺産」に選ばれました。これは、旧網走線開業時の鉄道施設群として、明治期に建設された当時の鉄道技術を現在に伝え、北海道東部が鉄道とともに発展したことを後世に示す貴重な土木遺産であるとして、陸別町の陸別駅駅舎とあわせて選定されたものです。

同遺産の認定制度は人々の暮らしを支えてきた歴史的な土木構造物の保存を目的に2000年に創設され、道内では本別川橋梁を含め88件が認定されており、まちづくり・まちおこしへの活用が期待されています。

本別川橋梁は、旧国鉄網走線当時の1908年に架設され、2006年にふるさと銀河線が廃止されるまで使用されていました。橋の長さは39・88mで、橋台には建設時のレンガが残り、当時としては先進的な工法で建造されています。

町では、歴史的価値のある本別川橋梁の保存を決め、2014年に特に貴重な北側橋台の補修を実施。広島原爆ドームや横浜赤レンガ倉庫群の補修工法を参考にし、長期の保存を可能としながらも補修前の風合いを保ち、太平洋戦争時の本別空襲の銃弾痕も鮮明に残しています。また、補修工事と合わせて歴史を語る説明板も設置しました。今回の認定は本別町これらの取り組みが評価されたものです。今後は、本別川橋梁を本町の産業の発展と平和の大切さを物語るシンボルとして歴史を語り継いでいきます。



明治43年の本別川橋梁



認定プレートを設置



本別空襲銃弾痕



橋梁の歴史を語る説明板

新豆や牛肉、本別町の味覚をPR 11 17-23

帯広藤九百貨店で11月17日～23日に開かれた「第22回とかち大収穫市」に本別町観光協会などが出店し、本別自慢の味覚をPRしました。販売したのは、新豆や牛肉、お菓子やキレイマメ商品など約100品目。本別町のコーナーは販売初日から多くの人々が訪れ、大変にぎわいました。



川と地域の結びつきを知る 11 25

歴史民俗資料館企画展「川が育てたふるさと」（9月6日～11月30日開催）関連講座として、講演会「川でたどる十勝の歴史」が11月25日、歴史民俗資料館で行われました。講師の帯広百年記念館学芸員の大和田努さんは、写真などの資料を用いて、十勝の開拓における川の重要な役割について解説。川の合流点に市街地が形成され、現代まで時代とともに移り変わってきた様子を詳しく話しました。特に本別町について「利別農場雑種記録」（資料館所蔵）などの実物資料を開いて読み解くと、25人の参加者は身を乗り出し、ふるさとの開拓時代に思いを巡らせました。



税を考える週間行事で入賞 11 16

平成28年度税を考える週間（11月11日～17日）に合わせて行われた「税に関する絵はがきコンクール（十勝池田地方法人協会主催）」および「税の標語コンクール（十勝池田間税会主催）」の表彰伝達式が11月16日、本別中央小学校で行われました。絵はがきコンクールでは、北海道法人協会連合会女性部会連絡協議会会長賞と十勝池田税務署署長賞を受賞した5年の木村凌也さんが、朝日薫十勝池田地方法人協会女性部会長、田中浩幸十勝池田税務署長からそれぞれ表彰状が手渡されました。また、標語コンクールでは町内の小学生4人が入選し、表彰されました。受賞者は次の通り。※敬称略
 北海道間税会連合会会長表彰優秀賞＝田口光一、留田眞太郎、三品桜世（以上、本別中央小6年）、本寺澤（仙美里小6年）



コミュニティ・スクール制度で開かれた学校づくりを 11 17

第54回本別町PTA研究大会（本別町PTA連合会主催）が11月17日、中央公民館で開催されました。大会は北海道大学学務部長の出口寿久氏により「地域とともにある学校づくりの推進に向けたコミュニティ・スクールと地方創生」と題した講演が行われ、出口氏は、全国の市町村で導入が進められているコミュニティ・スクール制度について紹介。同制度は、保護者や地域住民で構成する学校運営協議会のおかれた学校であるとし、全国の導入校の現状とメリットなどを語りました。本町では今年度、勇足地区でコミュニティ・スクール導入に向けた取り組みが進められており、参加したPTA会員や教員など約120人の来場者は、熱心に耳を傾けました。



新入学に向けて準備 11 15

平成29年4月に、小学校へ新入学を迎える町内の幼児53人（男子33人、女子20人）を対象に新入学児童健康診断が11月15日、町体育館で行われました。子供たちは保護者に手を引かれながら、身長や体重の測定、視力や聴力、歯科の検査を受け、保護者同士も情報交換を行うなど、入学に向けて準備を進めました。



本中生が交通安全を呼び掛け 11 15

本別中学校（池浦暢校長）の生徒が11月15日、北8丁目ふれあい公園で交通安全街頭啓発を行いました。これは生徒会が中心となり実施され、当日はボランティアで59人の生徒が集合。生徒らはスピードダウンと書かれた手持ち旗を振りながら道行くドライバーに、交通安全のカード入りポケットティッシュ約50個を手渡し、「これからセーフティドライブをお願いします」などと声を掛け、事故防止を訴えました。



最新の地図情報を災害対策に 11 14

株式会社ゼンリンと本別町による「災害時における地図製品等の供給に関する協定」の協定書調印式が11月14日、役場で行われました。この協定は、災害発生時や避難誘導時に最新の地図情報を柔軟に使用できるよう許諾を受けたもの。同社からは、災害対策用として本別町の住宅地図5冊や3万500分の1の全町図のほか、インターネットによる住宅地図の配信サービスが無償で提供されており、調印式では、本社北海道エリア統括部の中村英二部長と高橋正夫町長が互いに協定書に調印。高橋町長は、「災害対策にとって、地図はなくてはならないもの。訓練はじめ、防災体制の強化に利用させていただきます」と感謝の言葉を述べ、中村部長は「地図情報が大量に必要となる災害時はもちろん、復旧作業にもご活用いただきたい」とあいさつしました。同協定は、北海道内市町村で2番目の締結です。



おいしい野菜をありがとう 11 15

北海道立農業大学校（中島隆宏校長）畑作園芸経営学科2年の3人が11月15日、NPO法人ぼんべつつじの園（岡田清治理事長・利用者13人）を訪れ、同校で栽培したジャガイモ10kg、ながいも10kg、長ネギ5kgを寄贈しました。これは、毎年つじの園から、同校へ卒業記念品として、手作りのはがきセットを贈っていることから、そのお礼として実施。新津和也施設長は、「おいしい野菜をありがとうございます。毎年楽しみにしています」とお礼の言葉を述べました。





児童館3館合同 クリスマスのつどい 12 3

児童館3館合同クリスマスのつどいが12月3日、町体育館中競技室で行われました。栄町および東児童館と北地区交流センターを利用する小学生や幼児、保護者ら50人は、じゃんけん列車などの集団ゲームでお互いに打ち解けた後、各施設の職員が準備した「ブタたたき」「ゼリーすくい」などのゲームコーナーや工作コーナー、絵本読み聞かせサークル「すいととポテト」のパネルシアターなどを楽しみ、クリスマスイベントを満喫しました。



農大70周年記念事業 12 1

北海道立農業大学の創立70周年記念講演会（実行委員会主催＝津島朗実行委員長）が12月1日、同大学講堂で、千葉県のと郷代表の木内博一氏を講師に開催されました。木内代表は、農林水産省農業者大学卒業後、家業の木内農園を法人化して和郷グループを立ち上げ、カット野菜や冷凍・フリーズドライなどの加工、直売所やレストランなど6次産業を实践。講演は「農業経営の未来を切り拓く」と題し、ビジネスとしての農業の課題と解決策などについて、「一生懸命働き、夕方になると6時か（6次化）と言ってさまざまな分野の人と飲みに行く。すると他産業との隙間が見つかる」という木内代表の言葉に、約210人の来場者は耳を傾けました。



かごにボールを 入れなくちゃ 11 28

家庭教育支援事業「なかよし」によるちびっこ運動会が11月28日、健康管理センターで開かれました。参加した22組45人の親子は、初めに体操で体を動かした後、かけっこ、玉入れ、おやつ取り競争の3種目に挑戦。かけっこでは、ゴールにいるお母さん目指してハイハイしたり、玉入れでは、夢中にかごにボールを入れるなど、かわいらしい姿を会場いっぱいに繰り広げました。



けが予防の重要性を学ぶ 11 26

本別町体育協会技術講習会兼本別町スポーツ少年団本部指導者・母集団研修会「スポーツ身体ケア講習会」が11月26日、帯広市内の後藤カイロプラクティックオフィス院長である後藤雅博氏を講師に迎え、町体育館で開かれました。「リオ五輪での医療スタッフ経験並びにスポーツ障がいの予防と動作バランスの重要性」と題した講演で、後藤氏は、五輪スタッフ経験のほか、スポーツによるけがが及ぼす脳の働きについて解説。けがを負うと、誤った動作が脳にインプットされてしまうため、けがの後には、正しい動作を記憶させるトレーニングが必要だと強調しました。引き続き、けが予防等に役立つエクササイズ4種が紹介され、約40人の参加者は、スポーツ選手に必要な身体ケアの重要性を学びました。



一足早く クリスマスコンサート 12 3

本別プラスアンサンプル（佐々木公司会長）による第29回クリスマスコンサートが12月3日、道の駅「ステラ★ほんべつ」で開催されました。コンサートは2部構成で行われ、17人の団員がクリスマスソングやアニメのメドレーなどアンコールを含め14曲を演奏。第2ステージでは恒例のプレゼント抽選会や、本別ジュニアプラスアンサンプル13人との共演が行われ、約100人の来場者は一足早いクリスマス気分を味わいました。



青木一夫さんが 瑞宝双光章を受章 12 1

元美里別小学校長の青木一夫さんが瑞宝双光章を受章し12月1日、高橋正夫町長らが南2丁目の自宅を訪問し、青木さんへ勲記と勲章を伝達しました。青木さんは、昭和21年から平成元年まで42年の長きにわたり、教職員として勤務。うち昭和45年からは校長として押帯小学校、美里別小学校を含む十勝管内4校で教育の向上と教育行政の推進、発展に尽力されました。青木さんは受賞について「大変感激しています。教え子や同僚、家族に世話になり、感謝しかありません」と喜びの思いを語りました。



職場体験の 学びを報告 11 30

本別高校（佐藤渉校長）1年生によるインターンシップ報告会が11月30日、同校で行われ、31人が10月に計15事業所で取り組んだ職場体験の様子と学びを報告しました。生徒らは、それぞれの体験した仕事の内容や、感じたことなどをスクリーンやボードを使い、1人約3分でスピーチ。「仕事の大変さがわかった」「コミュニケーションが大切だと感じた」などと振り返り、最後は、自分自身の進路実現に向けた抱負を力強く語りました。



楽しいコミュニケーション のために 11 27

本別中学校PTA（吉川亜子会長）主催の教育講演会が11月27日、LINE株式会社インストラクターの磯貝和子さんを講師に、本別中学校体育館で行われました。磯貝さんは「インターネットを使うときに気をつけること、考えること」と題して講演し、「人は言葉だけでなく、表情や声、動作など含めてコミュニケーションをとる。インターネットでのやりとりは誤解が生じやすく、相手を傷つけてしまうことがある」と説明。参加した同校生徒や保護者、地域住民など約250人の参加者は、講師の質問に答えながら、起こる可能性があるトラブルについて考え、インターネットを通じた楽しいコミュニケーションの取り方を学びました。



12 7

地球温暖化防止の森づくりを表彰

平成28年度ほっかいどう地球温暖化防止貢献の森づくりコンクール（北海道など4者による実行委員会主催）において、美里町東下1の荒繁歳さんが奨励賞を受賞し12月7日、役場で表彰伝達式が開かれました。このコンクールは、北海道内で森林の適切な管理、育成により地球温暖化防止対策に大きく貢献する森林づくりに取り組んでいる森林所有者などを表彰するもので、荒さんは、40年以上の長きにわたり自己所有の林の整備を手掛けられ、適切な管理のもとすばらしい山づくりが行われていることが評価され、この度の受賞となりました。伝達式では、十勝総合振興局森林室の宮崎孝男室長から表彰状が手渡され、荒さんは、森林整備の苦勞のほか、「ここまでやってきた山づくりを評価いただき、感謝します」と喜びを語りました。



12 10

自衛隊員が清掃作業に汗

陸上自衛隊帯広駐屯地第5特科隊第一射撃中隊（西野仁人中隊長）による清掃ボランティアが12月10日、老人ホームで行われました。これは、本別町自衛隊協力会（加藤晴康会長）からの依頼により毎年行われている地域貢献活動の一環で、今年も隊員10人が同施設の窓や蛍光灯などを拭き取りし、施設内が大変きれいになりました。



12 10

本別と小松島市の特産品を互いに販売

本別町友好都市である徳島県小松島市特産のみかん、すだち、ゆずの販売会が12月10日、道の駅「ステラ★ほんべつ」の広場で行われました。これは、本別町と小松島市の特産品について、互いに販売ルートの構築を図る実証として行われたもの。12月3日・4日には、同市において本別町のジャガイモ、タマネギの販売も行われており、いずれも両地域の皆さんにより大好評のうちに販売を終えました。



12 11

約170人の剣士が熱戦

十勝東北部少年剣道本別大会（本別剣道連盟主催）が12月11日、町体育館で開催されました。大会には、十勝管内6町から59チーム約170人が出場。試合は、小学生・中学生の部に分かれた個人・団体のトーナメントで行われ、選手らは小手や胴などの技を組み合わせながら、優勝目指して気迫のこもった対戦を繰り広げました。



12 12

家畜ふん尿再生エネルギーの可能性を探る

経済産業省北海道経済産業局が主催する家畜ふん尿臭気対策説明会が12月12日、中央公民館で開催され、農業関係機関や畜産農家など約20人が参加しました。初めて北海道経済産業局の宗元輝久雄環境・リサイクル課長が道内における家畜ふん尿臭気対策事例を発表し、続いて土谷特殊農機具製作所の土谷雅明専務がバイオガスプラントの特徴について説明しました。本別町ではフリーストール経営や規模拡大予定の畜産農家がふん尿処理の課題を抱えており、意見交換では臭気対策と併せて再生エネルギーとしての可能性について活発な議論がなされました。



12 15

農畜産物のブランド化を学ぶ

食と農のブランド化・6次産業化勉強会（町主催）が12月15日、農林水産物のブランド化などを支援している草場企画（東京都）代表取締役の草場佳朗氏を講師に、中央公民館で行われました。草場氏は、ブランド商品に求められる要素のほか、商品の価値を継続して伝えていく重要性などを述べた上で、自慢の品を首都圏に売り込むためには、「生産者が直接、調理する人にPRするなど戦略的な手法が必要である」と強調。参加した町内農業者や農業関係者計28人が、熱心に聞き入りました。



12 16

年末の事故・犯罪に注意

本別警察署（會田英一署長）と本別町生活安全推進協議会（長谷川隆司会長）の連携による歳末特別警戒パトロールが12月16日、町内で実施されました。初めに本別警察署内で出動式が行われた後、警察車両や青パト隊の車両など計10台と、関係団体からの参加者約40人が、市街地のパトロールに出発。道行く人などにマグネットやパンフレットなどの啓発グッズ50セットを手渡ししながら、交通事故や犯罪被害の防止を呼び掛けました。



12 16

化石から知る太古の本別

歴史民俗資料館の企画展「大昔、ここは海だった～本別層の化石～」が12月16日から同館で始まりました。足寄動物化石博物館所有の大きな「泳ぐデスマスチルス」の骨格レプリカ標本や、クジラ、カイギュウの化石のほか、本別町内で発見された貝化石などが展示されています。何万年もの間に繰り広げられた自然環境の変化と動物の歴史を、海の生き物の化石から知ることができる内容です。企画展は2月25日まで開催され、1月16日には、小学生を対象とした「冬休み化石教室」も行われる予定です。



情報を広報電算担当へお寄せください
 2017.11.21

みんなの健康

389

介護をする上で、介護を必要としている人の自立を支援していくことが望ましいとされています。介護職員として目指さなければならぬことは「何から何までお世話ができる職員」ではなく、「利用者」の自立を支える職員」といわれています。

自立支援つてなに

人は誰でも自分の足で立ち上がり、自分のことを自分自身で行いたいと願っています。元気な時にはできていた当たり前の動作（起き上がり、立ち上がりなど）が何らかの事情でできなくなったりその日常生活をできるように支援することが介護です。

介護職員は、利用者による自由があっても、何か自分でもできることは無いかと考えています。「自分でできることを行ってもら

う」「自分でできることで、何が可能になるのかを考える」「目的によっては支援の力を借りて、自分の目的の生活を送ることができるようになる」「生活の質を高めるにはその人の興味や思い、目的を引き出す」という点に着目して現在「できること」「できないこと」を把握し、「できること」を維持する、または増やす援助を行い、必要な時に必要な援助をすることが、その人の尊厳を守ることにもつながります。



本別町養護老人ホーム 主査 佐々木かおり

「ムでは、利用者が入所した後も自分らしく生活していただくために、自分のやりたいことをするにはどうすれば良いかを一緒に考え、満足できる生活をおくれるように支援しています。介護方法などでお困りの方は、老人ホームにお気軽にご相談ください。

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。お父さん、お母さんのたくさんの愛に包まれてすくすく元気に育つてね！



美里別高東 佐藤 あかり (彩乃ママ)



南4丁目 吉川 結 葵 (結香ママ)



勇足西 加藤 蒼 士 (杏奈ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

お詫び

広報ほんべつ2016年12月号 (No.1058) 14～15ページの「第5次行財政改革大綱を策定」の記事の中で、本別町行政改革推進委員会の名簿に 佐藤 公昭 (本別町商工会) 委員のお名前が掲載されていませんでした。また、平田峻太委員のお名前に誤りがありました。次の通り訂正し、深くお詫びいたします。

誤：平田 峻太 (一般公募) 正：平田 峻太 (一般公募)

ご寄付ありがとうございます

平成28年11月16日から12月15日

次の通りご寄付をいただきました。紙上を借りて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別町医療保健福祉施設等整備基金 金1,000,000円 匿名
- ★台風被害等に伴う災害義援金 金506,000円
- ファイターズ台風災害義援金募金活動会 金350,000円
- 日本共産党北海道委員会 金47,000円
- 株式会社北海道日本ハムファイターズ 金47,000円
- 北海道日本ハムファイターズ選手会

- ★図書館図書購入費指定 金200,000円 南2丁目 岡崎 勉
- ★特別養護老人ホーム物品等購入費指定 金100,000円 弥生町 三浦喜美男
- ★老人ホーム指定 長いも 30kg 帯広市 足助博郁 尿取りパット 80枚 富士ホームセンター 代表取締役 岡田 清信

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付 計 金9,260,001円 766人

銀河ホップ・ステップ・ジャンプ

足寄町

ワッドキャンドルナイト

2017

ワッドキャンドルやアイスキャンドルの灯りが幻想的に会場を照らす、足寄の冬を楽しくむイイベントです。

1月28日(土) 午後4時

あしよる銀河ホール21前

陸別町

第36回 しばれフェスティバル

今年のしばれフェスティバルも盛りだくさんの企画で皆様をお待ちしております。ぜひ「来場ください」。

2月4日(土) 5日(日)

陸別町イイベント広場 (陸別町宇遠別)

内容 マイアイスキャンドルコンテスト、マジックロ焼き体験コーナー、餅つき隊餅無料配布コーナー、軽音楽コンサート、こども滑り台、プロジェクトシンママイベント他

※内容は変更になる場合があります。

お問い合わせ あしよる観光協会 ☎25-1613-1

内容 よしもとお笑いステージ ショー(テニス、マテロウ、ご当地アイドルライブショー(フルーティー)、キャラクターショー(動物戦隊ジュウオウジャー)、しばれ花火、大抽選会ほか

お問い合わせ 陸別町役場産業振興課 ☎27-12141 内線135

※しばれフェスティバル実行委員会ホームページを「しばれフェ」で検索してご確認ください。

本のある暮らし 190

図書館歳時記

～2017年クイズ初め～

戸籍のまど

お誕生

11月後半から
12月前半の
届出分

- 高橋 紇斗あやと ちん 裕貴ゆき ちえみ 11/15 栄 町
- 和田 果歩かほ ちゆん 昌之まさゆき 11/21 山手町
- 大川 莉奈りな ちゆん 秋男あきお 11/29 拓 農
- 戸田 和馬かずま ちゆん 賢治けんぢ 12/3 新 町
- 柳谷 歩花あゆか ちゆん 哲仁ていじん 12/9 柏木町

ご結婚

- (齊藤 敏博さいてん びん 勇足元町)
- (柚原 いずみゆはら いずみ 鶴居村)
- (渡辺 紘生わたべ ひろむ 北5丁目)
- (中川 梓なかがわ ずい 北5丁目)

おくやみ

- 佐々木康子ささき やすこ 76歳 11/18 北1丁目
- 阿部 秀男あべ ひでお 85歳 11/19 柏木町
- 原 福雄はら ふくお 68歳 11/25 仙美里3
- 林 武はやし たけ 64歳 11/26 北3丁目
- 藤内 守ふじうち まもる 87歳 11/26 向陽町
- 山田美代やまだ みよ 91歳 11/30 押 帯
- 阿保一二光あほ いちじふく 99歳 12/3 負籠 1
- 三浦 武男みづら たけお 95歳 12/4 弥生町
- 武市 桃江たけいち ももえ 88歳 12/5 勇足西1
- 吉田イツ子よした いづこ 90歳 12/5 栄 町

わたしたちのまち

前月比
 人 口 7,407人(-6)
 男 3,645人(-4)
 女 3,762人(-2)
 世帯数 3,711戸(-1)
 〔11月末日住民基本台帳〕

歳時記とは、俳句の季語を集めて分類し、季語ごとに解説や例句を加えてまとめた本のことです。暮らしの中で誰もが味わう季節感や、日本特有の季節を表す繊細なことばが、春・夏・秋・冬・新年の5つに分けられ、暦のように並びます。
 新しい年、ちょっと知的に季節を感じてみませんか。

秋

「名月をとつてくれ
 ると [] かな」
 [] に入る語は？

- ① はしご
- ② 泣く子
- ③ さげぶ

春

俳句では、季節を陰暦で表しますが、「春」は今の何月頃のことでしょうか？

- ① 一月から三月
- ② 二月から四月
- ③ 三月から五月

新年

「歳時記は日本人の感覚のインデックス(索引)である」と言った詩人は誰でしょう？

- ① 宮沢賢治
- ② 谷川俊太郎
- ③ 寺田寅彦

冬

「うしろすがたのしぐれてゆくか」の作者で、放浪の俳人と呼ばれたのは誰？

- ① 金子兜太
- ② 吉田類
- ③ 種田山頭火

夏

「五月雨をあつめて早し最上川」有名なこの句の作者は誰でしょう？

- ① 小林一茶
- ② 与謝蕪村
- ③ 松尾芭蕉



【ヒント】 神居山の洞穴に、人知れずこの俳人の像があります

クイズの正解は、1月6日～31日の開館中、図書館内に展示します。

お問い合わせ先
本別町図書館
 (愛称:ぶつくる一丸)
 本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112